

## 執筆者紹介

### 陳 華榮 (チン カエイ)

東京大学総合文化研究科外国人研究生、東西大学博士課程

中国広東外語外貿大学修士課程修了後、韓国東西大学日本地域研究科博士課程へ進学。2018年から外国人研究生として東京大学総合文化研究科比較文学比較文化研究室に在籍。現在は梁啓超が翻訳した日本語小説の『佳人之奇遇』、『十五小豪傑』などについて研究している。論文は、「意識形態操控下梁啓超対佳人奇遇的改写」(『東北亜外語研究』(2016.4 p85-90))、「『佳人之奇遇』の翻訳から見る梁啓超の朝鮮観」(2017年 日韓次世代フォーラム)がある。

### FITHYANI Anwar (フィティヤニ アンワル)

筑波大学大学院博士課程

2005年パジャジャラン大学日本文学科卒業後、同年ハサヌディン大学日本文学科で教え始めた。2014年愛媛大学法文学研究科修士課程修了。現在、筑波大学大学院人文科学研究科国際日本研究専攻博士課程一年、ハサヌディン大学(インドネシア)専任講師。分野は近代文学・比較文学。

主な論文：

1. 「菊池寛の戯曲「父帰る」とウスマル・イスマイルの戯曲翻案「Ayahku Pulang」の比較論」、『Jurnal Lensa Budaya』2014年10月
2. 「戯曲「父帰る」と菊池寛」、『Jurnal Nihongo』2014年11月
3. 「インドネシアにおける菊池寛の戯曲「父帰る」の受容」、『愛文』2015年12月

### CITKO Malgorzata Karolina (チトコ マウゴジャタ カロリナ)

フロリダ州立大学ポスドク

ハワイ大学マノア校、東アジア言語・文学科、ハワイ、米国、博士、日本文学、2018年8月

古典文学：中世和歌・中世歌論・藤原俊成・藤原清輔・御子左家・六条家

日本での留学：奈良教育大学、国文学研究資料館、早稲田大学

研究発表

1. 2018年5月10～13日：『中世前期における和歌知識伝播の包括性・排他性』中世時代国際研究会議、(西ミシガン大学)【口頭発表・英語】
2. 2018年3月22～25日：『『万葉集』の不安定化：中世時代における古代歌集の享受』アジア研究学会(AAS)年次研究大会、(ワシントン・ディーシー)【口頭発表・英語】
3. 2015年6月20～21日：『力を確立する手段としての儀式：六条家・御子左家活動の儀式的な性格』日本アジア研究学会(ASCJ)年次研究大会、(明治学院大学)【口頭発表・英語】
4. 2014年3月8～9日：『平安時代後期における『万葉集』享受と『万葉集時代考』

第8回和歌ワークショップ、(スタンフォード大学)【口頭発表・英語】

5. 2013年12月7日:『和歌のライバル・味方か? : 六条家・御子左家歌人の和歌における『万葉集』の摂取』第9回国際日本学会会議、(早稲田大学)【口頭発表・英語】
6. 2013年9月28~29日:『「キヤノンの中のキヤノン」の解体: 中世前期の歌論・和歌のための様々な『万葉集』写本』ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)会議、(京都大学)【口頭発表・英語】

## FITTLER Áron (フィットレル アーロン)

大阪大学日本語日本文化教育センター非常勤講師

ハンガリーのカーロリ・ガースュパールカルビン大学文学部の日本専攻とハンガリー文学語学専攻を卒業した後、大阪大学大学院言語文化研究科において、修士号と博士号を取得。博士課程の修了後、大阪大学日本語日本文化教育センターにおいて非常勤講師と特任助教を務め、現在同センターの非常勤講師。専門分野は日本古典文学で、仏教関係の和歌の表現研究と古典文学の翻訳に関する研究を行っている。

〔著書〕

- Szarasina napló – Egy XI. századi japán nemesasszony önéletírása (「更級日記 ― ある11世紀の日本の貴族の女性の自叙伝 ―」、個人出版、2018) [『更級日記』のハンガリー語訳注]

〔論文〕

- 「和歌の自然観と西洋詩における自然描写の修辞 ― 植物描写に注目して ―」(常田 慎子・唐仁原エリック編『日本文学のネットワーク ― 重なり合う言説・イメージ・声 ―』、日本文学・文化国際研究会、2018年3月)
- 「同音反復式の序詞の翻訳に関する一考察 ― 『古今集』と『新古今集』と『百人一首』歌を例に ―」(『人文』第16号、学習院大学、241(102)~276(67)頁)

## 李 曉源 (イ ヒョウオン)

東京大学大学院人文社会系研究科特任准教授

釜山大学校人文大学漢文学科卒業。ソウル大学校人文大学国語国文学科博士課程を修了。文学博士。専攻は韓国漢文学。対日使行録、対中使行録、筆談等の記録に現れる思想文化の交流に関する研究を行っている。近年、徂徠学派と通信使、朝鮮との関係が持つ交流史、思想史、学術史的意味を追究することに関心を持っている。「荻生徂徠と通信使 ― 徂徠朝鮮観の形成と継承に注目して」、「通信使と徂徠学派の交流の様相とその意味」等の論文がある。

## 梁 蘊嫻 (リョウ ウンカン)

元智大学応用外国語学科アシスタント・プロフェッサー (助理教授)

2010年、東京大学大学院総合文化研究科にて学術博士号取得。博士論文のテーマは「江戸時代における『三国志演義』の受容 ― 義概念及び挿絵を中心に ―」。研究分野

は、江戸文学及び比較文学比較文学です。主要論文は「『諸葛孔明鼎軍談』における『三国志演義』の受容とその変容——「義」から「忠義」へ——」（『比較文学研究』83号、2004年3月、「呉服文織時代三国志」の虚構と真実——都賀庭鐘の歴史観——」（『国語と国文学』2017年4月号）など。

### **MAUFROID Yannick（モフロワ ヤニック）**

フランス国立東洋言語文化研究所（INALCO）博士課程

パリのフランス国立東洋言語文化研究所（省略：INALCO）の日本研究センター（CEJ）博士課程6年生。今までの研究テーマは島尾敏雄の文学で、現在島尾の作品における「夢の方法」についての博士論文を書いている。

### **櫻井 陽子（サクライ ヨウコ）**

駒澤大学文学部教授

お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業。お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科比較文化学専攻満期退学。博士（人文科学）（お茶の水女子大学）。

#### **【著書】**

- ・『平家物語の形成と受容』（汲古書院 2001年）
- ・『『平家物語』本文考』（汲古書院 2013年）
- ・『平家公達草紙——『平家物語』読者が創った美しき貴公子たちの物語——』（共著 笠間書院 2017年）

#### **【論文】**

- ・「平家物語が描く源頼政の変化退治・鶴退治」（『明月記研究』14号 2016年1月）
- ・「覚一本平家物語の書写と本文——新出伝本の紹介から「小宰相」「宗論」の問題に及ぶ——」（『駒澤国文』53号 2016年2月）
- ・「語り本系『平家物語』への道のり——和歌の改編作業を手がかりとして——」（『国語国文』87巻2号 2018年2月）

### **中川 成美（ナカガワ シゲミ）**

立命館大学特任教授

1951年東京生まれ。立教大学大学院博士課程満期退学。同志社女子大学助教授を経て、1995年から立命館大学文学部に所属。2017年3月退職後は、特任教授として在籍。この間に1999年にモンテリオール大学客員研究員、2002年から3年にはスタンフォード大学客員教授、2009年ホーチミン人文社会科学大学客員教授、2011年から12年にはパリ・ディドロ大学招聘教授、2016年ストラスブール大学客員教授などをつとめた。2011年、立教大学から文学博士号を授与された。

専門は日本近現代文学・文化研究。主著に『語りかける記憶——文学とジェンダースタディズ』（小沢書店、1999）、『モダニティの想像力——文学と視覚性』（新曜社、2009）、『戦争をよむ——70冊の小説案内』（岩波新書、2017）などがある。

### 金 容澈（キム ヨン Chol）

高麗大学校グローバル日本研究院教授

東大大学院で博士号取得。専門は美術史。主に岡倉天心、近代日本の戦争画、などについて研究を重ねる。これに加え、中国、韓国、台湾を含めた東アジアの近代美術に関する様々なテーマを取り上げてきた。2015年国際シンポジウム〈ビジュアルの中のアジア太平洋戦争〉を企画、現在は〈アジア太平洋地域戦争ビジュアルフォーラム〉を準備中。

### 大津 雄一（オオツ ユウイチ）

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

早稲田大学教育学部国語国文学科卒業。早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻後期課程退学。博士（文学）早稲田大学。

研究分野は日本中世文学。特に軍記物語の研究を中心とする。著書に『軍記と王権のイデオロギー』（翰林書房・2005年）、『平家物語の再誕——創られた国民叙事詩』（NHK出版・2013年）など、論文に「軍記と暴力」（『文学』・2015年3月）、「『平家物語』という祝祭」（『古典遺産』2016年3月）などがある。

## 第42回国際日本文学研究集会プログラム

平成30年11月17日（土）

開会挨拶

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

### 第1セッション

#### ▼研究発表

- ①『佳人之奇遇』における范卿という人物をめぐる

陳 華榮（東京大学総合文化研究科外国人研究生、東西大学博士課程）

- ②島尾敏雄『死の棘』の構成の一面：

草稿から作品への第四章「日は日に」の作成過程

MAUFROID Yannick（フランス国立東洋言語文化研究所（INALCO）博士課程）

- ③日本占領下のインドネシアにおける菊池寛「父帰る」

—— ウスマル・イスマイルの戯曲翻案をめぐる

FITHYANI Anwar（筑波大学大学院博士課程）

### ショートセッション

- ①幸田露伴と近代中国知識人に関する試論——「墨子」の受容を手掛かりに——

梁 鎮輝（宇都宮大学大学院博士課程）

- ②佐藤惣之助『琉球諸嶋風物詩集』における古琉球

許 圓圓（広島大学客員研究員、黄冈師範学院助教、北京語言大学博士課程）

- ③村上春樹の〈変身〉——『恋するザムザ』論

林 圭介（法政大学中学高等学校専任教諭）

- ④『鸚鵡返文武二道』のハンガリー語訳——黄表紙のエッセンスをどう伝える？

CSENDOM Andrea（国際交流基金フェロー（中央大学））

- ⑤古典文学は世界遺産になりうるか——日本研究と文化遺産学の学際的な試み

GERLINI Edoardo（早稲田大学文学学術院訪問学者、

ヴェネツィア・カフォスカリ大学研究員）

平成30年11月18日（日）

## 第2セッション

### ▼研究発表

- ④知の不安定性の力：藤原清輔と藤原俊成の歌論と和歌の分析からみた  
中世における『万葉集』の受容と摂取について  
CITKO Malgorzata Karolina（フロリダ州立大学ポスドク）
- ⑤西洋における西行受容の一事例  
——ヴィッラーニ・ゲー・アンドラーシュ『反射』の場合——  
FITTLER Áron（大阪大学日本語日本文文化教育センター非常勤講師）
- ⑥意図された誤読 —— 荻生徂徠の「水足氏父子詩巻序」の矛盾、そして朝鮮  
李 暁源（東京大学大学院人文社会系研究科特任准教授）
- ⑦清水市次郎出版の『絵本通俗三国志』の挿絵についての考察  
梁 蘊嫻（元智大学応用外国語学科アシスタント・プロフェッサー）

## ポスターセッション（11月17日～18日）

- 〈越境文学〉と〈日本文学〉—— シリン・ネザマフィの「サラム」をめぐる ——  
CLAUDEL Sophie（法政大学大学院博士課程）
- 絵入狂言本考—— 台帳や役者評判記との比較から ——  
高橋 俊彦（埼玉大学大学院修士課程）
- 中国における日本近現代小説の受容研究：1972～1978年  
苗 鳳科（中央大学大学院博士課程）
- 文語文を素材とした国際共修授業—— 正岡子規『はて知らずの記』を読む ——  
虫明 美喜（宮城教育大学特任准教授）／佐藤 勢紀子（東北大学教授）
- 水村美苗の『本格小説』におけるノスタルジア——『嵐が丘』との比較 ——  
皆本 智美（摂南大学外国語学部准教授）
- 『源氏物語』『紫式部日記』における仏教関連用例とそのデータ化  
春日 美穂（大正大学教育開発推進センター専任講師）／小菅 あすか（國學院大學大学院博士課程）／高倉 明樹子（國學院大學大学院博士課程）

## 【シンポジウム】「いくさの表象」

- 司会 櫻井陽子（駒澤大学文学部教授）
- ①戦争と文学—— 表象としての深い絆 ——  
中川 成美（立命館大学特任教授）
- ②近代日本における元寇図と〈蒙古襲来絵詞〉の図像の伝承  
金 容澈（高麗大学校グローバル日本研究院教授）
- ③端麗なる戦場—— 軍記物語のいくさの表象とその来由についての試論 ——  
大津 雄一（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

◆第42回国際日本文学研究集会 参加者数のべ114名（発表者含む）

## 平成30年度国際連携委員会委員名簿

委員長	坂本 信道	京都女子大学文学部教授
委員	勝又 基	明星大学人文学部教授
委員	河野 貴美子	早稲田大学文学学術院教授
委員	河野 至恩	上智大学国際教養学部准教授
委員	櫻井 陽子	駒澤大学文学部教授
委員	中村 ともえ	静岡大学教育学部准教授
委員	ビュールク・トーヴェ・ヨハンナ	埼玉大学人文社会科学研究科准教授
〈館内〉		
副委員長	齋藤 真麻理	研究部教授・国際連携部長
委員	谷川 恵一	副館長（研究担当）
委員	海野 圭介	研究部准教授
委員	加藤 聖文	研究部准教授
委員	木越 俊介	研究部准教授
委員	グヴァン・ディディエ	研究部准教授
委員	野網 摩利子	研究部准教授